



## 就 任 に 当 つ て

会長 浅 田 長 平\*

わが鉄鋼協会が発足したのは大正4年2月であたかも今から45年以前のことです。当時のわが国の粗鋼生産額は70万t程度ではなはだ微々たるものでありましたが、今やわが国は仏国を凌駕して米ソ独英に次ぐ世界第5位の鉄鋼国となり、本年度の生産額も2,000万t以上が予想されまた10年後には3,800万tにも達しようといわれております。

かかる鉄鋼界の躍進に当面する重大な時機において、鉄鋼協会の会長の職につくことは私として無上の光栄であるとともにまたその責任の重大なるを痛感するものであります。

鉄鋼事業は国家の根幹工業であり、その盛衰は直ちに機械、電気、造船その他一般重工業の発展に影響するものであります。この間にあつて鉄鋼協会は陰に陽にこれら諸工業の発展に寄与して来た次第であります。かかる重大なる機運の中に鉄鋼協会の使命もいよいよ重大を加えんとしておりますので、私は今後当会の歩むべき道についてはさらに検討を加えその使命の達成を計る必要があると考えます。その詳細については会員諸君の御意見も充分承わり実施に移して行きたいと考えておりますが、差当り私の気付いておりますことは機関誌「鉄と鋼」の運営についてであります。

私は過去約50年間、鉄鋼事業の実際に携わつて来た者であります。その間ドイツの“Stahl und Eisen”は極めて多くの技術上並びに経営上の参考資料を与えてくれたと確信しております。すなわち研究論文、新技術報告、統計資料などいずれも極めて有益なるものが多かつたように感ぜられます。特にその中に載せられている広告が工場施設計画の指導者となり、また耐火物、その他補助材料の入手並びに新知識の吸収にいかに役立つかを強調しなくてはなりません。

わが機関誌「鉄と鋼」も是非これに負けないものといいたしたいと存じます。

「会誌」にのせられる論文や、技術報告は現在以上に学問的にも向上し、かつ工業的に有益なるものとするはもち論であります。この際広告欄を特に次のような趣旨に添つて改善することが望ましいし、またその方向に努力して実現を期したいと考えております。

- (1) 製鉄機械、諸計測器、鉄鋼材料、補助材料、その他鉄鋼事業に関連ある事項にわたること。
- (2) 単なる業者の宣伝に止まらず、差支ない限りの写真、図面、技術的データを付し使用者の guide

\* 株式会社神戸製鋼所取締役会長

としても有効なること。

- (3) 本文記事と同等または場合により全体の 2/3 程度のページを占めてもよい。
- (4) 日本国内のみならず外国からの広告ものせ、日本の工業製品を外国に紹介するとともに外国製品の知識吸収にも役立たせること。
- (5) 英文版の発行に際してもその内容の向上を計るとともに極力この主旨に添うこと。
- (6) 会誌表紙の design を再検討すること。

終りに臨み会員諸君の御協力御支援を切に御願い申し上げます。

---